

日本一山五十川の玉杉

熊野神社の境内にある「山五十川の玉杉」は樹姿が、球形など「ころから」その名がある。



樹 齢	推定1,500年
目通り幹囲	11.4 m
根 元 囲	22.4 m
樹 高	36.5 m
枝張り(樹冠)	600 m ²
枝張り(南北)	30.9 m
枝張り(東西)	36.2 m

国指定天然記念物
山五十川の玉杉
昭和26年(1951)6月9日指定

平成18年9月4日
測樹者:温海町森林組合

山形県指定無形民俗文化財

山戸能

県指定無形民俗文化財



恋慕の舞

由来については、「能事始」「神楽始」によると56代清和天皇の貞観8年(866年)高貴な方々37人が諸国名山に御巡幸あり、黒川村に下られたが、その中の一人能楽に堪能な方が、実俣村(現山五十川北部)に住み、黒き御面、金欄錦の直垂、うこんの大口、切れ能、恋慕の舞を伝え、河内神社祭礼に奉納したとされている。

その後、河内権現祭礼に來られた天龍上人より道行離子、金丹の座揃離子を授かり、笛や鼓を始め横しまの小袖、めいちらしの小袖を譲られたとされる。

道行離子、座揃、恋慕の舞、式三番を始め、番能「高砂」「羅生門」「賀茂」「竹生島」「羽衣」「兼平」「春日龍神」「舟弁慶」「狸々」の番があり、毎年一曲ずつ演じている。

昭和39年3月17日、山形県無形民俗文化財に指定。

山形県指定無形民俗文化財

山五十川歌舞伎



由比ヶ浜の場

由来は、宝永年間(約300年前)にさかのぼるとされるが、「靈龍堂祖山文書」「梅林堂文書」や「寝覚実那志草」の記録によると、寛政4年(今から210年余前)、疫病を祓い村を救った湯殿山鉄門海上人へのお礼として実俣村の若者達が芝居を演じたのが公演の初出とされる。1827年からは、蕨野村(現山五十川南部)との競演となる。

組織は、両村の若連中が義務付けられ、明治以降、消防組、若勢講、青年会、青年団を経て自治会(古典芸能保存会…全世帯加入)を中心に保存育成に努めている。

主な芸題は、「仮名手本忠臣蔵」「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」など14狂言37場を有し、山戸能と併せ昭和45年斎藤茂吉文化賞を受ける。

昭和61年8月12日、山形県無形民俗文化財に指定。

山戸能・山五十川歌舞伎

一つの集落に二つの古典芸能

山五十川には、数百年の歴史を持つ「山戸能」と「山五十川歌舞伎」の二つの古典芸能があります。毎年、河内神社例祭の5月3日と11月23日に奉納上演されています。



古典芸能収蔵館



河内神社(古典芸能伝承館)



熊野神社・玉杉へ続く参道



熊野神社

熊野神社と玉杉

大同元年(806)5月3日、都から藤原経季が実俣村(現在の山五十川)の地に住みつき、紀州那智の熊野権現を勧請し、村の東南の小高い丘にたつた巨木(当時推定樹齢300年)を神木と定めてお祀りしたとされている。

明治7年(1874)熊野神社と改称し、明治41年(1908)神社合祀に併せ、村内16無格社は全て河内神社に合祀されたが、稀なる神木「熊野の玉杉」が残り、今でも存続し、今日を迎え、平成18年(2006)には、玉杉の1500歳を祝う。



4月～11月の期間、毎週日曜日に、熊野神社境内入り口と古典芸能収蔵館前を交互に、「玉杉ふれあい市」が開かれます。

古代モチをはじめ、特別栽培米、赤カブや山菜など、季節折々の地元特産品がふられます。

玉杉保護会の活動

村のシンボル

「玉杉」を守りつなげる!!

山五十川自治会では、全世帯(約160戸)加入による玉杉保護会を設立し、貴重な村のシンボル「玉杉」を末永く後世に引き継ぐため、毎年、玉杉への施肥、周辺の木々の伐採、歩道・保護柵補修など、玉杉の保護・育成活動と周辺の環境整備を行っています。

